

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	古典
科目基礎情報					
科目番号	0029	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気情報工学科	対象学年	2		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	『探求国語総合 古典編』(桐原書店) (1年次から継続使用)				
担当教員	上芝 令子				
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 随筆の古典的名作を読むことで、日本語日本文化の教養を身につける。</li> <li>2. 古典の文学史的知識を深め、人生上の教養とする。</li> <li>3. 韻文の古典的名作を読むことで、日本語日本文化の教養を身につける。</li> <li>4. 漢文の文法・通釈に習熟し、日本語習熟能力の礎とする。</li> <li>5. 長く読み継がれてきた古典の持つ人生の知恵を体得し、人間力を涵養する</li> </ol>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	随筆の古典的名作を読むことで、日本語日本文化の教養を身につけることが適切にできる	随筆の古典的名作を読むことで、日本語日本文化の教養を身につけることができる	随筆の古典的名作を読むことで、日本語日本文化の教養を身につけることができない		
評価項目2	古典の文学史的知識を深め、人生上の教養を身につけることが適切にできる	古典の文学史的知識を深め、人生上の教養を身につけることができる	古典の文学史的知識を深め、人生上の教養を身につけることができない		
評価項目3	韻文の古典的名作を読むことで、日本語日本文化の教養を身につけることが適切にできる	韻文の古典的名作を読むことで、日本語日本文化の教養を身につけることができる	韻文の古典的名作を読むことで、日本語日本文化の教養を身につけることができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	古典の授業を通して、日本語日本文化および東アジアの文化に対する深い見識を身につける。各作品の読解により、古人の思索を追体験して、豊かな教養を修める。本授業は、読む力を通じた多様な人間認識、人間力形成のために必要である。				
授業の進め方・方法	講義を基本とする。適宜課題提出も課す。				
注意点	授業態度を重視する。態度不良者はその都度減点対象とし、単位不認定に至ることがある。積極的な授業参加により、語彙力、読解力、感受性を養い、人間として多様な価値観を持って生きることの大切さ、また東洋文化の基底を解することで、各人の教養の幅を広げていってほしい。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、中世の文学史		
	2週	中世の文学史、「徒然草」(「つれづれなるままに」)	1. 随筆「徒然草」人生の智慧を読解し体得できる能力を涵養する。文中の語彙、表現を解し、通釈能力を高める。文法、文学史的知識を身につける。		
	3週	「徒然草」(「ある人、弓射ることを習ふに」)	2. 古典文学史 上代・中古一近世の代表的作品の概要を知る。文学的知識を教養として身につける		
	4週	「徒然草」(「ある人、弓射ることを習ふに」)			
	5週	漢詩(五言絶句、七言絶句)			
	6週	漢詩(五言律詩)			
	7週	中間試験			
	8週	「土佐日記」(「帰京」)	3. 日記「土佐日記」、俳諧「奥の細道」日記文学に関する文学的知識、俳諧に関する基礎的知識を身につける。鑑賞を通して、作者の価値観、自己観照のあり方を読みとる感性、また文法・文学史的知識を身につける。		
	2ndQ	9週	「土佐日記」(「帰京」)		
	10週	「奥の細道」「旅こそ栖」			
	11週	「奥の細道」「旅こそ栖」			
	12週	「故事成語」	4. 漢文「故事成語」「論語」「孟子」・漢詩漢文の修辞、表現法を理解する。人生の修養・智慧を読みとって体得する力を涵養する。文法・文学史的知識を身につける。漢詩の鑑賞能力を身につける。		
	13週	「論語」学而篇			
	14週	「孟子」(「五十歩百歩」)			
	15週	期末試験			
	16週	答案返却・解答説明			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	2	前2,前4,前8,前12
			古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	2	前2,前4,前8,前12

			代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べる。また、それらに親しもうとすることができる。	2	前2,前4,前8,前12
			教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	2	前2,前4,前8,前12

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0